朝　校門のところで

令和２年４月に本校に赴任して以来、３年間、朝、校門のところに立ち、登校してくる子どもたちを見守っていました。真冬には、校門のところを通っていく地域の方に「寒くて大変ですね」と声をかけていただくことも何度かありましたが、寒さはそれほど苦にはなりませんでした。なぜならば、朝の校門のところで、一人ひとりの子どもの表情を見たり、声をかけたりするのを楽しみにしていたからです。子どもたちが校舎に入ってしまうと、それぞれの教室で過ごすことになり、自由に声をかけることはできません。

校門のところでの子ども達とのやりとりは、次のようなものでした。

落とし物１

『キーホルダーが落ちていました』と持ってきてくれた子がいます。名前が書いてないから持ち主が見つかるかな？と思いながら、手に持って朝の挨拶を続けていました。
すると２人の女の子がそのキーホルダーを見て
『あっ、〇〇ちゃんのだ』
『ほんとだ。これ絶対にそうだよ』
「そうなんだ。よくわかるね」
『だっていつもカバンにつけているもの。届けてあげます』
「そう、ではお願いね」
無事に持ち主に届いたようです。子どものことは子どもに聞いた方がいいですね。

落とし物２

ある女の子がうつむきながら登校してきます。
『お母さんが書いてくれた紙を落としてしまいました』
「そうか、それは大変だ。でも、もう学校が始まる時間だから、教室に行きなさい。先生が探してみるから」
その子が歩いてきた道を辿っていくと確かに落ちていました。教室まで持って行くと満面の笑みを浮かべていました。

落とし物３

『校長先生、お金が落ちていました』
「本当だ、お金だ。どこかに名前が書いてあるかな？」
10円玉をじっと覗き込みました。その子も覗き込み
『校長先生、書いてあるわけないよ』
「そうだね。お金だものね。お金には名前が書けないから、落としてしまうと誰のかが分からなくなってしまうよね」
その子も納得顔で教室に向かいました。

ぐずっていたはずなのに

お母さんに連れられて登校してきた１年生。お母さんの姿が見えなくなると、機嫌が悪くなり校門のところから動こうとしません。さて、どうすればいいでしょうか。
「あっ、紙が落ちている。なんて書いてあるんだろう」
『９ってかいてあるんじゃないの』
「すごい、よく読めたね。じゃあこれは何かな」
『６だよ。これは４』
「そうか、なるほど。これは６、こちらは確かに４だね。じゃあ、これは？」
次から次に読んでいきます。機嫌は直ったようです。
「よし、じゃあ行こうか」
そう言って、その子と手をつないで昇降口に向かいました。

分数の勉強

『校長先生、どうして1/3に３をかけると１になるのかという問題の答えを考えついたので聞いてください』その子が続けて言います。
『1/3は、１を３つに分けたうちの１つ分だから、それが３つあると１になるからです』
「すごい。よく考えたね。あっているよ」
私はその子を思いきり褒めました。何しろ答えを考えついた子は２年生だったのですから…

気が利く６年生

『大変です。１年生が五所神社のところで転んで泣いています』
６年生が知らせに来てくれました。すぐに駆けつけると、心配して周りを取り囲む子ども達の輪の中に、けがをした１年生がいました。
「みんな、心配してくれてありがとう。あとは先生に任せてね」
子ども達は学校に向かいました。さて、どうしようかと思っていると、西村養護教諭が到着。先ほどの６年生が西村先生も呼びに行ってくれたのです。なんと気が利く６年生でしょうか。西村先生にバトンタッチしました。

やさしい６年生

歩道橋をゆっくりと歩いて登校する１年生がいます。後から６年生が早足で歩道橋を駆け上がってきます。１年生を追い抜いていくかと思えば、急にスピードを緩めました。１年生の歩くゆっくりなペースに変え、１年生にとっては段の高い歩道橋の階段を恐る恐る降りていく１年生を見守ります。そして、歩道のところでは横に並んで手をつなぎ、ゆっくりゆっくり歩いていきます。背の高い６年生と小さな１年生です。２人は知り合いではないようなのですが、このような光景を何度か目撃しました。

番外編

校長室で

３人の６年生が校長室を訪ねてきました。
『わぁ～、私、校長室に初めて入った。校長室ってすごく広いね。校長先生、こんな広いところに１人でいて、さびしくないんですか？』
「そうなんだ、さびしいから、ついついみんながいる教室に見に行くんだよ」
『そうか、だから１日に２回も３回も見に来るんですね』
切り返したつもりが、見事に切り返されました。

廊下を歩いていると

『校長先生、私、一輪車に乗れるようになったよ』
『私は、さっき歯が抜けたんだよ』
『僕は、ここの歯がぐらぐら』
『私は、前歯が生え変わったんだよ』
次々に話しかけてきます。何年かぶりに、書写の授業を１年間受けもった２年２組の子どもたちとの楽しい会話でした。